

特別展 橋本コレクション

中国の絵画

— 明末清初 —

平成3年 4月9日〔火〕～5月26日〔日〕

※会期中、陳列替えを行います。

●開館時間—午前9時～午後5時〔入館は4時半まで〕

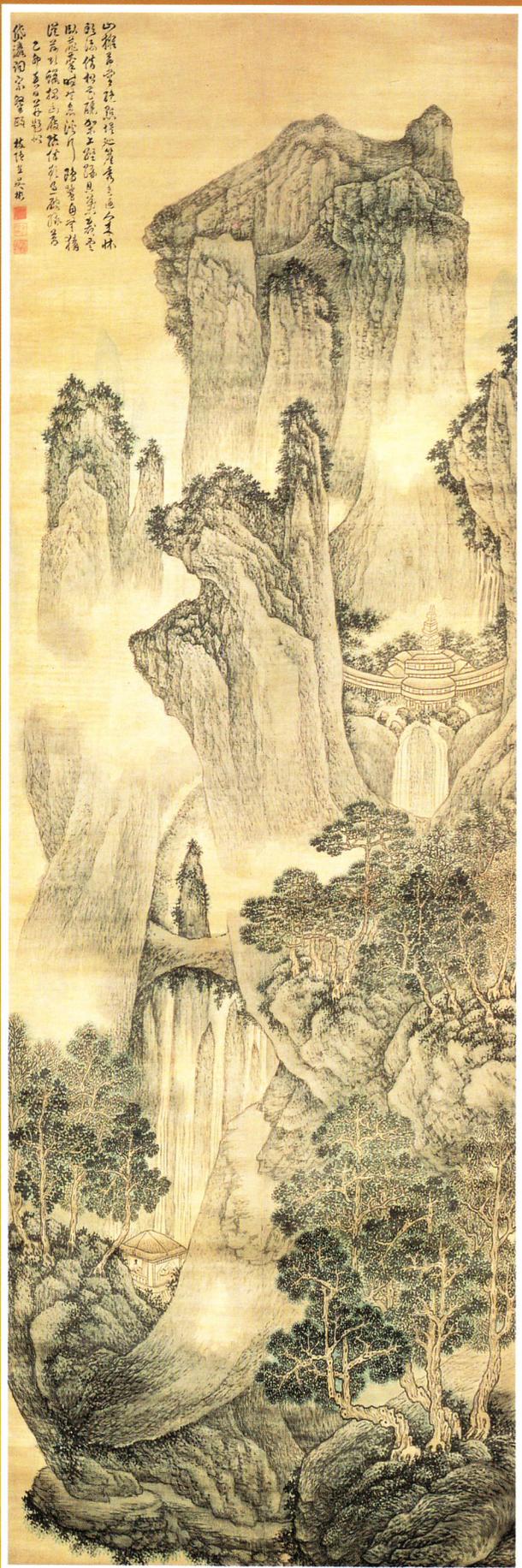
●休館日—4月14日〔日〕、16日〔月〕、22日〔月〕、30日〔火〕

5月1日〔水〕、7日〔火〕～10日〔金〕、12日〔日〕、13日〔月〕、20日〔月〕

●入館料—一般200円（1600円）／小中学生100円（800円）

※（ ）内は団体20名以上

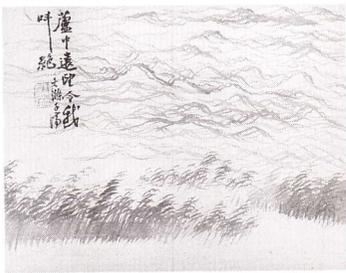
明・吳彬筆「溪山絶塵図」



山嶽高聳、雲霧縹緲、松竹蒼翠、
野鳥啼鳴、遠峯隱隱、
近水潺潺、
此景實為、
仙山幻境、
乙卯年夏月、
吳彬筆於、
金陵

渋谷区立松濤美術館

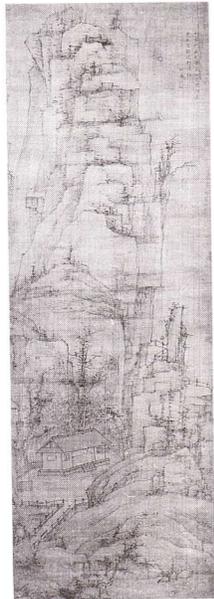
〒150 渋谷区松濤2-14-14 電話03-3466-9421
井の頭線「神泉駅」下車、徒歩5分／「渋谷駅」下車徒歩15分



石濤「杜甫詩意圖冊」



陸暉「江山泛舟圖」



姚宋「幽壑高樓圖」



孫欽「牡丹圖」



傅山「雲山寂寞圖」



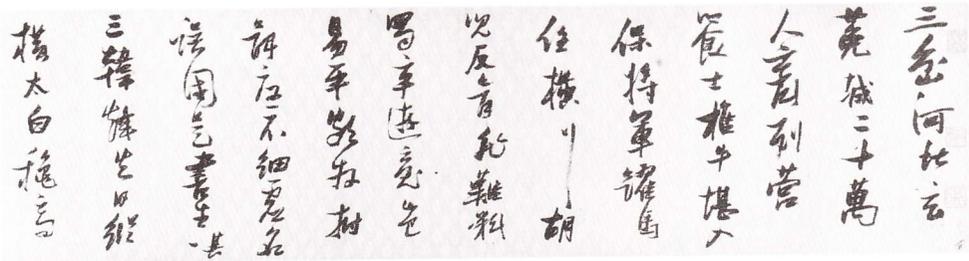
王鐸「六根無塵圖」



襲賢「千山夕照圖」



丁雲鵬「夏山欲雨圖」



張瑞圖「感邊事作」

明末清初という時代は、長い中国の歴史の中でも、政治、社会、経済、文化のあらゆる面で特筆される時代でした。政治的には、王朝の交代、それも漢民族王朝から満州族という異民族王朝による統治という変化であり、社会的に商人を中心に都市が勃興し、経済的には貨幣経済が浸透して資本主義的要素の萌芽が見られ、文化的には都市を中心に庶民文化が深く広い展開を示すなどの様相を呈しました。

こうした時代、絵画の世界においては、極めて多様な局面が展開されました。中国絵画の一つの柱である、所謂文人画が官僚士大夫によって担われ続けましたが、一方で職業画家的な文人画家が登場してきます。また古画の研究を怠るなどして形式化してしまつた呉派に代わり、松江出身の董其昌が古画の研究を第一として新たに理論化して文人画の地位を確立し、それは、清初の四王へ受け継がれて清朝の正統的画風として定着します。この董其昌と同時に、明末の不安な世相を反映するかのような怪異とも言える山塊や人物を描く呉彬、丁雲鵬などの奇想派と呼ばれる一群の画家達が出現し異彩を放ちました。更に、王朝交代に際して、二朝に仕えることをせずして、胸中の鬱屈した思いを画筆に託した石濤らの遺民画家と呼ばれる人達が自由で個性的な作品を残しています。

また、都市の発展を背景に、それぞれの都市の風土と需要に応じて、松江、南京、揚州などに独自の画風が育まれ、商人の経済力の増大を背景とする新安派なども登場します。

本展は、当館に寄託されております国際的にも著名な橋本末吉氏蒐集の中国の書画のなから、明末の萬曆年間から清初の康熙年間までの約一五〇年間にかけて活躍した中国人の書画家約八十家百二十点余の作品を陳列いたします。個性溢れるそれぞれの作品を通して、この時代の絵画の多様化を見るときにも、明末清初という時代についても考えていただければと思います。

講演会

4月20日〔土〕午後2時 「橋本コレクションに見る明末清初の中国絵画」
 京都市大学人文科学研究所助教授 曾布川 寛

5月4日〔土〕午後2時 「明代の文人画」
 東京国立博物館中国美術室長 湊 信幸

美術映画会 4月21日〔日〕午後2時 「故宮博物院の名蹟」
 5月5日〔日〕午後2時 「安宅コレクションの中国陶磁」 「近世異端の画家蕭白」

美術相談 4月29日〔月〕午後2時 西嶋 俊親(洋画)、戸田 康一(日本画)
 5月19日〔日〕午後2時 遠藤 原三(洋画)、畑農 照雄(版画)